

令和元年6月14日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03454

研究課題名(和文)長期停滞に関する理論・実証分析：メカニズム・マクロ経済的帰結・金融財政政策の役割

研究課題名(英文)On Secular Stagnation: Mechanism, Macroeconomic Consequences, and Roles of Monetary and Fiscal Policies

研究代表者

竹田 陽介 (Takeda, Yosuke)

上智大学・経済学部・教授

研究者番号：20266068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、日本銀行総裁の定例記者会見に関して自然言語処理の諸手法を適用した。白川総裁の裁量的な発言はDelphicなアナウンス効果をもち、黒田総裁の発言はマイナス金利政策の導入以降、裁量に傾き対話戦略が不調であることを明らかにした。第二に、国債管理の観点から、マイナス金利政策の法的規制理論、および正常化後の中央銀行のバランスシートの最適な規模および資産構成に関する研究を展開した。第三に、中央銀行総裁の選出が民主主義の赤字として認められてきた理由について政治経済学に説明した。第四に、格差是正のための最適な資本課税に関して、親から子への贈与が子の行動を律する側面を考慮した理論モデルを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、長期停滞の下で混迷の度を深める金融財政政策の役割について、自然言語処理、国債管理、政治経済学、最適資本課税の観点から、新しい視点を提供している。長期停滞がもたらしつつある中央銀行という社会制度および金融政策の役割の変化に即して、理論的な分析を行い、金融と財政の今後の展望について現実的な回答を与えている。

研究成果の概要(英文)：There are four issues we have addressed related to secular stagnation. First, we applied two methods of natural language processing to documents at the regular press conferences of the Bank of Japan's Governors: Masaaki Shirakawa and Haruhiko Kuroda. Gov. Shirakawa's discretionary wordings announced Delphic effects, while Gov. Kuroda had changed the tone from target- and instrument-oriented wordings to discretionary ones since the negative interest rate policy was introduced. Second, from a viewpoint of debt management, we constructed models of legal restrictions on negative interest rate policy and central bank's balance sheet under a new normal. Third, we explained a political-economy model of why elected central bankers are allowed to be democratic deficit. Forth, we constructed a model of optimal capital taxation with parental transfers to kids, where income inequality does matter.

研究分野：マクロ経済学

キーワード：長期停滞 非伝統的金融政策 中央銀行 国債管理 自然言語処理 民主主義の赤字 最適資本課税

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究では、失業や所得に関する固有ショックに晒され事後的に異質な経済主体となる家計が、人口減少などに起因する企業の生産性の低下による集計的ショックを合理的に予想しながら、予備的な貯蓄を行なうモデルを想定する。本モデルでは、負の集計的ショックに対する合理的期待が、家計の現在における予備的貯蓄を増加させ、負の総供給ショックの予想を反映する資産価格の低下を通じた負の資産効果によって、消費支出を低下させデフレを生む経路が重要となり、将来の負の総供給ショックが現在の負の総需要ショックを生むという自己実現的期待が重大な役割を果たす。

自己実現的期待が支配的であるマクロ経済において、長期停滞を阻止するために有効な金融財政政策、および長期停滞をもたらすマクロ経済的帰結の影響を緩和する経済政策について、政治経済学的分析を含めて提言したい。

2. 研究の目的

現在、先進諸国におけるマクロ経済の長期停滞は最重要の政策課題であり、長期停滞のメカニズム・マクロ経済的帰結・金融財政政策の役割についての学術的関心は高まる一方である。本研究は、長期停滞に対して有効な金融財政政策の導出を目的とする。

第一に、固有ショックに晒され事後的に異質になる家計が、人口減少による企業の生産性低下など集計的ショックを合理的に予想し、予備的貯蓄を行う理論モデルを構築する。将来の負の総供給ショックが現在の負の総需要ショックを生むという自己実現的期待が役割を果たす。

第二に、長期停滞を阻止するための株価ターゲティングについて、経済政策不透明指数を作成し定量的に分析する。

第三に、長期停滞がもたらす資産格差の拡大について、日米欧の家計金融に関するデータを用いて定量的に国際比較した上で、議会交渉過程を予備的貯蓄の理論モデルに適用し、資産格差の是正に寄与する最適資本課税率を導出する。

3. 研究の方法

本研究は、長期停滞の下で混迷の度を深める金融財政政策の役割について、自然言語処理、国債管理、政治経済学、最適資本課税の観点から、新しい視点を提供している。長期停滞がもたらしつつある中央銀行という社会制度および金融政策の役割の変化に即して、理論的な分析を行い、金融と財政の今後の展望について現実的な回答を与えている。

4. 研究成果

第一に、日本銀行総裁の定例記者会見に関して自然言語処理の諸手法を適用した。白川総裁の裁量的な発言はDelphicなアナウンス効果をもち、黒田総裁の発言はマイナス金利政策の導入以降、裁量に傾き対話戦略が不調であることを明らかにした。

第二に、国債管理の観点から、マイナス金利政策の法的規制理論、および正常化後の中央銀行のバランスシートの最適な規模および資産構成に関する研究を展開した。

第三に、中央銀行総裁の選出が民主主義の赤字として認められてきた理由について政治経済学に説明した。

第四に、格差是正のための最適な資本課税に関して、親から子への贈与が子の行動を律する側面を考慮した理論モデルを構築した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

竹田 陽介, 民主主義の赤字としての中央銀行を誰が掌るべきか, 基礎研レター, 査読無, 2018, 1-5.

竹田 陽介, 現代における中央銀行総裁の条件 デジタル通貨の時代を前にして 改革者, 査読無, 2018, 38 - 41.

Yosuke Takeda, Masayuki Keida, Computer-Based Narrative Analysis of the Bank of Japan's Governor Kuroda, VoxEU Column, 査読無, 2017, 1-3.

Masayuki Keida, Yosuke Takeda, A Semantic Analysis of Monetary Shamanism: A Case of the BOJ's Governor Haruhiko Kuroda, Discussion Papers, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI), 査読有, 17011 巻, 2017, 1-24.

竹田 陽介, マイナス金利政策の法的規制理論, 金融経済研究, 査読無, 39 巻, 2017, 76-85.

〔学会発表〕(計 8 件)

Masayuki Keida, Yosuke Takeda, A Semantic Analysis of Monetary Shamanism: A Case of the BOJ's Governor Haruhiko Kuroda AEA Poster Session, Annual Meeting of the 2019 American Economic Association, Atlanta, 2019.

Yuta Saito, Yosuke Takeda, Capital Income Taxation with Parental Incentives, AEA Poster Session, Annual Meeting of the 2019 American Economic Association, Atlanta, 2019.

Yosuke Takeda, Yuki Fukumoto, Yasuhide Yajima, A Note on the 'New Normal' of Central

Bank's Balance Sheet , Fourteenth Annual Conference, Asia-Pacific Economic Association , 2018 .

Yosuke Takeda , Yuki Fukumoto , Yasuhide Yajima , A Note on the 'New Normal' of Central Bank's Balance Sheet , Monetary Economics Workshop in Honor of Prof. Kenneth Kuttner at Kobe University , 2018 .

Yosuke Takeda , Yuki Fukumoto , Yasuhide Yajima , A Note on the ' New Normal ' of Central Bank ' s Balance Sheet , 日本銀行金融研究所セミナー , 2017 .

竹田 陽介 , 今後の日本経済の Big Pictures , 「今後の日本経済研究に関するパネルディスカッション」シンポジウム 『深尾京司・宮川努両教授の還暦を記念して 経済成長 , 生産性 , 無形資産 , グローバリゼーション : 今後の日本経済』 , 2016 .

竹田 陽介 , マイナス金利の法的規制理論 , 日本金融学会 2016 年度秋季大会中央銀行パネル「マイナス金利政策の評価」(招待講演) , 2016 .

Yosuke Takeda , Yuta Saito , Optimal Taxation in an Intra-Household Model of Time Inconsistent Preference , Merit Goods and Strategic Bequests , Western Economic Association , 12th International Conference , 2016 .

〔図書〕(計 2 件)

Yosuke Takeda , Masayuki Keida , Hawks and Doves: Deed and Words-Economics and Politics of Monetary Policymaking , CEPR eBook , 2018 , 162 .

竹田 陽介 , 東洋経済新報社 , マイナス金利下における金融・不動産市場の読み方 , 2017 , 101-108 .

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年 :
国内外の別 :

取得状況(計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名 :

ローマ字氏名 :

所属研究機関名 :

部局名 :

職名 :

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名 :

ローマ字氏名 :

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。